の農林関係の機関が多い。中枢管理機能と密接な関係をもつ金融機関の熊本市における店舗の集積についてみると、福岡市につぐ高い集積を示している。

◇ 将来の展望

九州における行政的管理機能の集積の高い都市としての性格が強まる。

また、大学、研究所などの学術研究機能の集積が高められ、すぐれた文化施設の整備とあいまって、九州における学術文化の拠点都市としての性格が高まる。

市域およびその周辺内陸部には、機械金属加工型工業をはじめとする工業集積が高められ、経済的管理機能の集積が高まり、さらに総合商社の支店、支社、中央大手メーカーの支店などが集積し、また金融機関の集積がすすむなど経済的管理機能が強まる。また情報機能をも備えた流通団地が建設され、九州特に中南部九州における流通拠点としての都市機能は著しく高まる。

データ通信網の整備がすすみ、行政、経済に関する情報拠点としての機能が高まる。

さらにまた、諸会議施設の誘致、設置および施設の整備がすすめられ、熊本市の九州における交通拠点としての地位の確立、質、量ともにすぐれた観光資源、自由な思索を可能にする、創造的ふんい気などあいまって、中枢都市熊本における会議開催は大幅にふえ、会議都市としての性格が高まる。

◇ 対策の方向と重要施策

1　行政管理機能の集積の強化

九州を縦横に結ぶ交通通信ネットワークの整備にともなって中枢都市熊本の拠点としての重要性はますます高まるものと考えられるので、今後九州地区への新設が予想される行政機関、政府関係機関の誘致を強力に促進する。さらに、既存の行政機関、政府関係機関についても、その機能、機構の拡充を促進するものとする。

2　学術研究機能の拡充、集積の促進

既存の大学については、充実強化を促すほか、情報化時代に対応するため、情報工学などの学科の新設、「コンピューター・モデル大学」指定の促進などをはかる。

また、東南アジアに関する機能を備えた大学の設立について、所要の調査研究をすすめるなど新規大学の設立、誘致についても、その推進をはかる。学術文化的環境を向上させ、人材開発と集積を高める。

さらに、調査研究機関等の設置ならびに誘致を促進する。

3　経済管理機能の拡充整備

経済的管理機能の積極的な拡充策を推進するものとする。特に卸し部門を中心とした商業機能の拡充強化をはかることを目的として、地場資本による民間企業の育成強化をすすめるとともに、九州における一次貯留基地としての管理機能をもった大手メーカー、商社の支店、などの積極的誘致をはかり、地元卸し機能を中心とする流通機能の拡充整備の推進とあわせて、九州特に中南部九州における商業活動の拠形成点をはかる。

4　九州特に中南部九州における流動拠点としての機能の拡充強化

流通体系の整備をすすめ、九州特に中南部九州における流通基地の形成を目ざす。このため、流通センター設置の具体化をすすめるとともに、経済観光会館の建設を促す。

5　九州における行政、経済に関する情報拠点としての機能拡充

情報化社会の到来を迎え、それへの適応体制を整えるため、今後行政管理機能の集積の高い熊本市の特性を十分生かして、九州における行政に関する情報体系の整備を促すとともに、知識や技術を商業ベースで提供するいわゆる「頭脳会社」の誘致設立を促すなど、情報提供サービス業などの誘致、育成をはかり、九州における行政、経済に関する情報拠点として機能の拡充をはかる。

6　会議都市としての機能拡充

熊本市の九州における交通拠点性の増大にかんがみ、また豊かな観光資源を有する特性を生かし、国その他の機関による会館などの誘致をはじめ会議諸施設の整備を促進し、会議都市としての機能拡充をはかる。

■ 第4節　魅力ある中枢管理都市の形成

都市は経済活動の場であるとともに、住民生活の場でもある。したがって、そこに住む人びとにとっても健康で文化的であり、かつ、快適な都市生活を営むことができる場でなければならない。

このためには、すぐれた都市施設の集積が必要であるが、なかでも上水道、公園、緑地、整備された街路などの生活環境施設、図書館、美術館、体育・レクリエーション施設などの文化厚生施設の整備が重要な要件となる。

◇ 現況と問題点

熊本市は、豊富な水と緑に恵まれ、森の都として人びとに知られている。最近における都市のめざましい発展につれ、住宅、公園、上水道、下水道など生活環境の整備についても積極的な努力がはかられ、住みよい都市づくりがすすめられている。

しかし、熊本市が県都としてばかりでなく、九州における中枢都市として、さらに発展するためには、今後いっそう、街路、上水道、下水道、公園、住宅などの生活環境施設や図書館、美術館、博物館など文化厚生施設の整備充実をはかり、美しく活気のある都市をつくりあげる必要がある。

◇ 将来の展望

快適で、文化的、創造的なふんい気に満ちた魅力ある都市が形成される。水と樹木を生かした公園緑地地帯の建設が広く行なわれ、「森と水の都」のイメージがさらに高まる。

また、美術館の設置をはじめ、文化施設の整備がすすみ、本都市の文化的ふんい気はいっそう高まり、九州における文化の拠点都市としての機能が向上する。

◇ 対策の方向と重要施策

今後、中枢都市熊本の開発を推進するためには、前節までに述べてきた諸方策を積極的に推進するとともに、現存する産業や住民、さらに新たな産業や人材が健全な経済活動と快適な都市生活を営むことができるよう上水道、下水道、公園、街路などの生活環境施設、文化、体育、レクリエーション施設などの文化厚生施設の整備をすすめ、魅力に満ちた都市づくりを推進するものとする。

そのため、特に次の事項について積極的、重点的にその推進をはかるものとする。

公園、緑地の整備

熊本城公園を中枢都市熊本の中央公園としてその整備を促進し、市民のいこいの場を形成するとともに、都市観光の一拠点とする。

竜田山公園、金峰山公園の整備を推進する。静寂な地域の維持につとめるとともに、森林の保存育成をはかり、森林と自然の美しさを十分発揮できるよう整備する。

白川河岸の緑化を促進する。白川河岸に植樹を促し、園路、ベンチなどを設け、河岸の緑化をはかり、本市の森と水の都のイメージ形成に資する。

江津湖公園の整備を推進する。江津湖畔一帯を対象に県、市および民間が一体となって大規模な公園整備を計画し、その具体化をはかる。

市域の街路緑化を推進する。地区別に樹種を選定し、街路または街区毎に樹種を統一して、植栽をすすめ、個性ある緑化を促進して、「森の都」のイメージ・アップをはかる。また総合運動全園の建設を検討し、その具体化をすすめる。

文化厚生施設の整備

さらに、上水道、下水道、清掃施設などの生活環境施設の整備が進展し、都市周辺部における大規模な住宅団地の建設をはじめとする住宅の整備とあいまって、市民に快適な生活をもたらすことになろう。

一方、中心市街地は都市改造事業、市街地再開発事業など一連の都市再開発事業が積極的に行なわれる結果、近代的な町並みを出現させ、林立する高層ビル、明るい近代的商店街などが活力にあふれた都市的環境を形成していくことになる。